

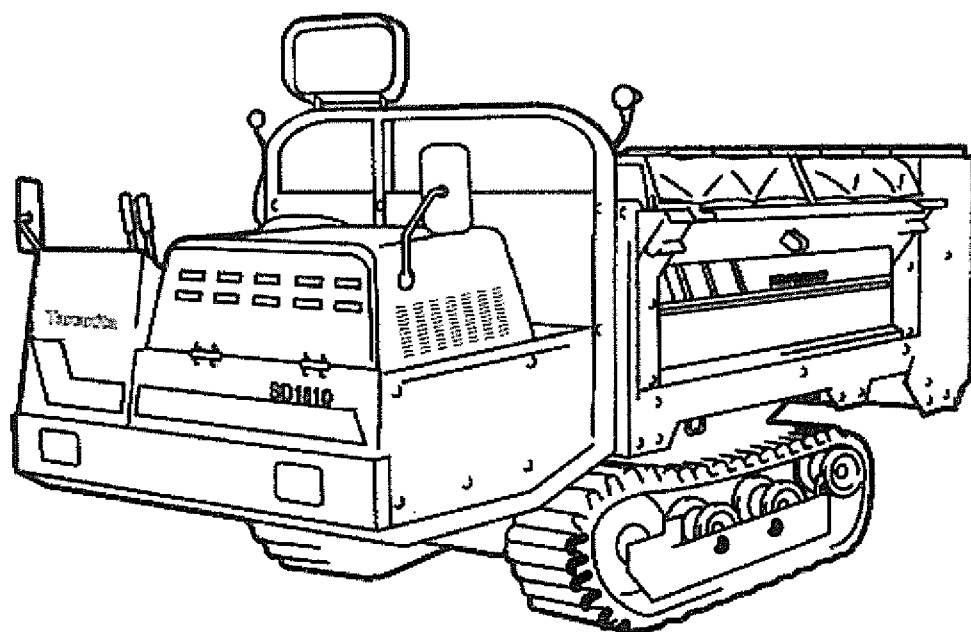
取扱説明書及び部品表

Takakita

自走マニマスプレーダ[®]

SD1810・SD1810S

SD1810D・SD1810DS



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走マニアスプレッダ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	9
各部の名称とはたらき	10
運転に必要な装着の取扱い	12
1. 操作盤	12
2. 走行クラッチペダル	13
3. 散布クラッチレバー	13
4. 変速レバー	13
5. スロットルレバー	14
6. 駐車ブレーキペダル	14
7. サイドクラッチレバー	14
8. シート	14
9. コンベア速度調節レバー	15
10. 燃料ゲージ	15
作業前の点検について	16
1. 点検一覧表	16
運転のしかた	17
1. 新車の取扱い	17
2. 走行順序	17
3. 停止順序	18
4. トラックへの積込み・積降ろし	18
5. トラックおよびトレーラでの運搬	19
作 業 方 法	20
1. 堆肥の積込み	20
2. 散布量の調節	20
3. 散布手順と要点	21
5. 散布方法	22
6. 最後の散布	22
簡単な手入れと処置	23
1. エンジンの点検・調整	23
2. オイル類の点検および交換	23
3. ラジエータの点検	24
4. 燃料について	25
5. バッテリーの液量	27
6. エアクリーナの点検	28
7. クローラの点検	28
8. 駐車ブレーキの点検	28
9. 走行クラッチの点検	28
10. サイドクラッチの点検	29
11. コンベアチェーンの張り調節	29
12. コンベア送り構造部の調節	29
13. シェアボルトの交換	29
14. 電気系統の点検	30
15. 各部のベルトの調節	30
16. 各部への注油・グリスアップ	31
17. 長期格納	31
不 調 診 断	32
付 表	35
1. 主要諸元	35
2. 配線図	36
3. 主な消耗部品	36

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

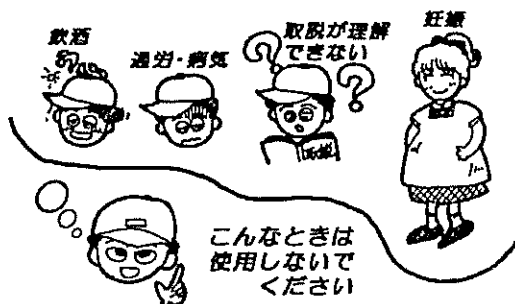
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

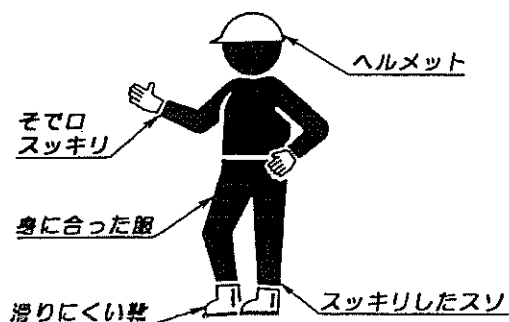
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



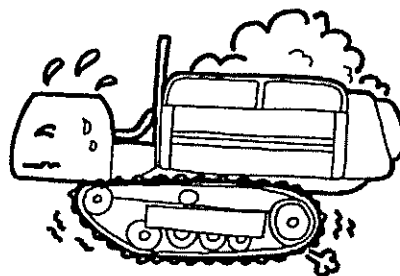
(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 積載量の厳守

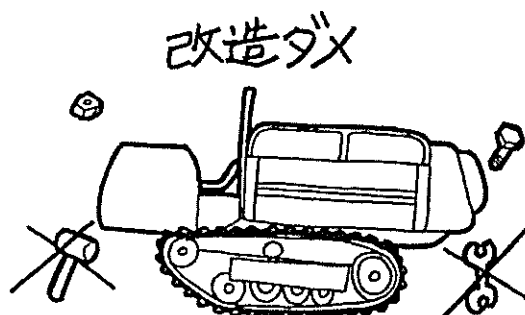
本機は、積載量を限定しています。表示以外堆肥の積み過ぎは危険です。積載量は平地で1800kg、傾斜地作業は最大傾斜15度までとし、積載量は1200kgです。



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



⚠ 安全に作業するために

(5) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

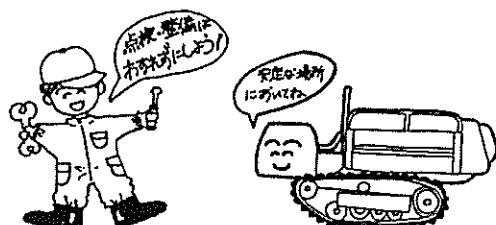


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

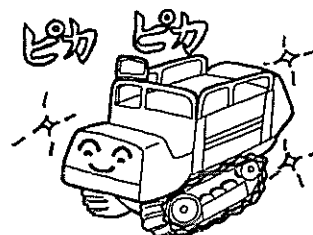
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止めてから行ってください。



(4) 機械を常にきれいに

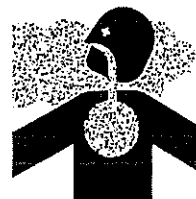
エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっていると、おもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。



(5) 排気ガスには充分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

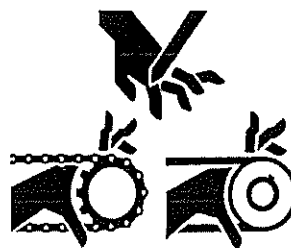
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、充分換気を行ってください。



(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(7) 注油・給油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間はやけどや火災の危険がありますので、絶対に給油、注油は行わないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。

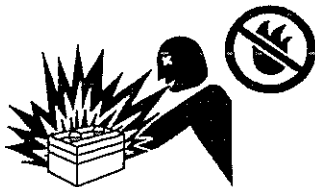


(8) 電気部品を修理するときは

①電気部品やその周辺の修理を行うときには、必ずバッテリーの(－)側を外してから実施してください。



②バッテリーは、充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発の恐れがあります。充電中はタバコを吸ったり、火を近づけたりしないでください。

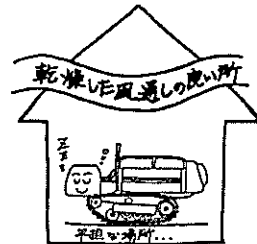


③バッテリー液は希硫酸なので扱いには注意し、体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合は、すぐ水で洗ってすみやかに医師の診療を受けてください。



(9) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部及びチェーンには充分注油し、バッテリーを取外し、キーを抜き取り、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。



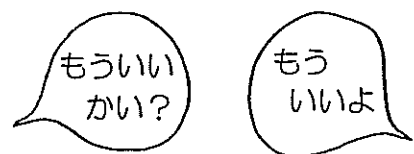
(2) エンジンを始動するときは

クラッチを切り、変速レバーを中立にし、周囲の人にホーンなどで合図をしてからエンジンを始動してください。周囲の安全を確かめ、急発進しないよう徐々に発進してください。



(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



⚠ 安全に作業するために

(4) 散布する堆肥の異物は取り除く

散布する堆肥には石・木片・鉄片などの異物を混入させないようにしてください。機械の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ方向へ飛散して危険です。



(5) 散布中は荷台内に顔を出さない

散布中は運転席側にも堆肥などが飛散する場合があります。危険ですので、保護ガードより顔や頭を出さないでください。

(6) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

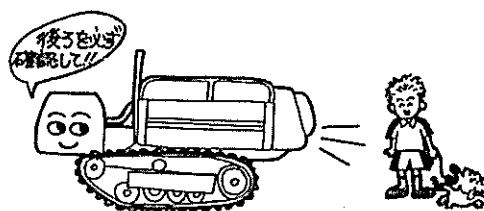


(7) 移動および作業の旋回のときは

あぜまわりがコンクリートあぜの場合旋回時に片方のクローラをあぜぎわに乗り上げたり、急旋回は絶対に行わないでください。転倒や脱輪の恐れがあります。危険です。

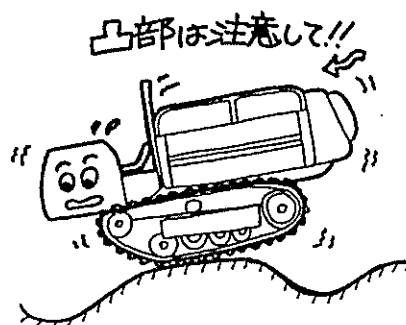
(8) 散布作業するときは

散布作業中は後方に堆肥が10m前後に飛散します。後方に人がいないことや障害物のないことを充分確認し、散布距離を考慮して作業してください。



(9) あぜの乗り越え

畦畔を越えるときは、機体が上向きから下向きに急に変わるので十分に注意し、最低速度で畦畔に直角に越えるようにしてください。あぜがコンクリートであったり、高さが10cm以上のときはアユミ板を使ってください。



⚠ 安全に作業するために

(10) 傾斜地で作業するときは

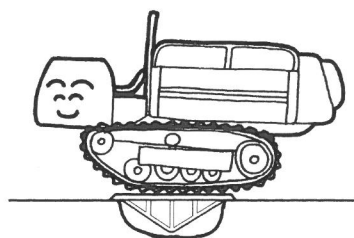
次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に直角方向に走行してください。
- ②チェンジ操作は行わず、変速位置をあらかじめ低速にして速度を下げ、特に下り坂ではエンジンプレーキを使用してください。
- ③堆肥が片寄る場合があります。片荷になった時には、平均になるように積み直ししてください。



(11) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (12) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に置き、エンジンを停止し、変速レバーを低速に入れ駐車ブレーキをかけてください。
やむを得ず坂道に駐車するときは、車止めをしてください。

4. 道路走行・輸送するときは

(1) 本機は型式認定を受けていません

公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

- (2) トラックなどへの積込み・積降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で方向変更をできるだけ行わないでください。

積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。運送中は荷動きがないように急発進、急停止、急カーブは絶対にしないでください。

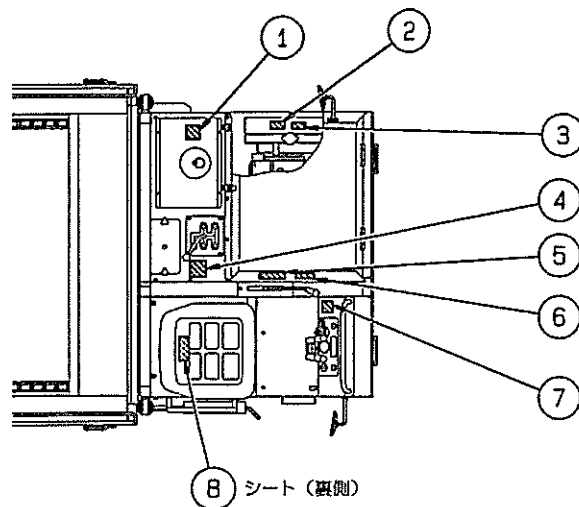


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

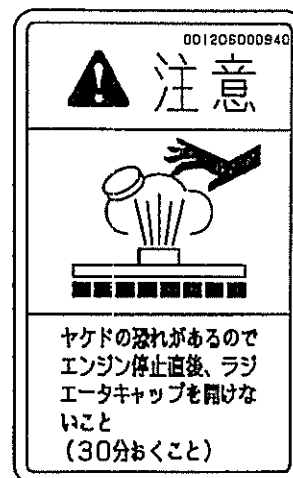
5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206000390



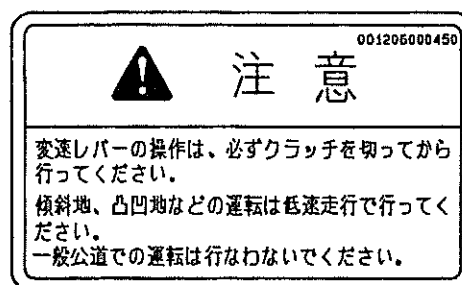
②部品コード 001206000940



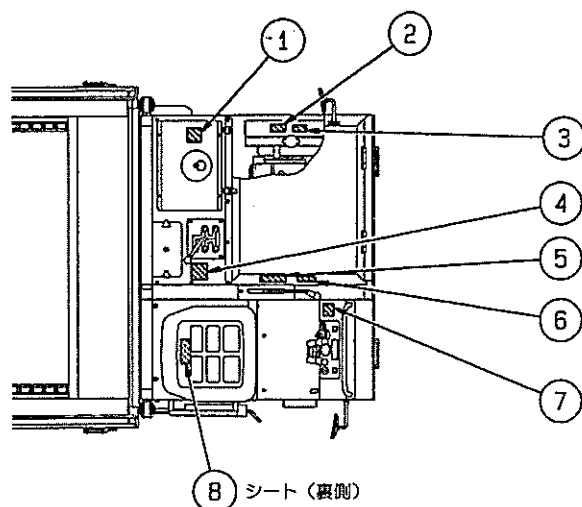
③部品コード 001206000420



④部品コード 001206000450



⚠ 安全に作業するために



⑤部品コード 001204500042

⚠ 注意

001204500042

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン稼働前に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 公道走行はできません。トラック等で運送してください。
---	--

⑥部品コード 001206000400

⚠ 警告

001206000400



排気ガスに注意

室内および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満して、人体に有害です。

⑦部品コード 001206000440

⚠ 注意

001206000440



高速での急旋回禁止

転倒、転落のおそれがあります。

⑧部品コード 001206000430

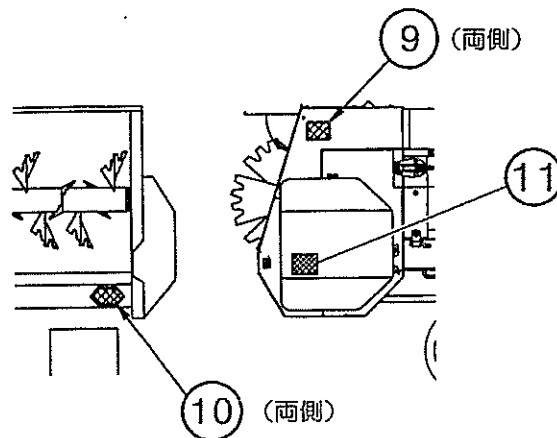
⚠ 注意

001206000430

バッテリーの取付は⊕側を取付た後、⊖側を取付けてください。取外しは⊖側を取外した後、⊕側を取外してください。

本機を修理するときには、⊖側を外してください。

⚠ 安全に作業するために

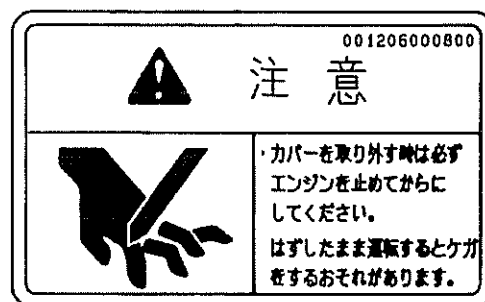


⑨部品コード 001206000250

⑩部品コード 001104100010



⑪部品コード 001206000800



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、牛糞などの堆肥を散布する作業にご使用ください。

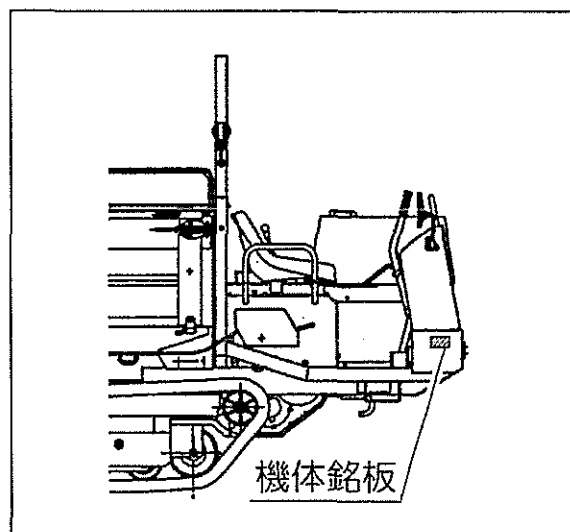
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

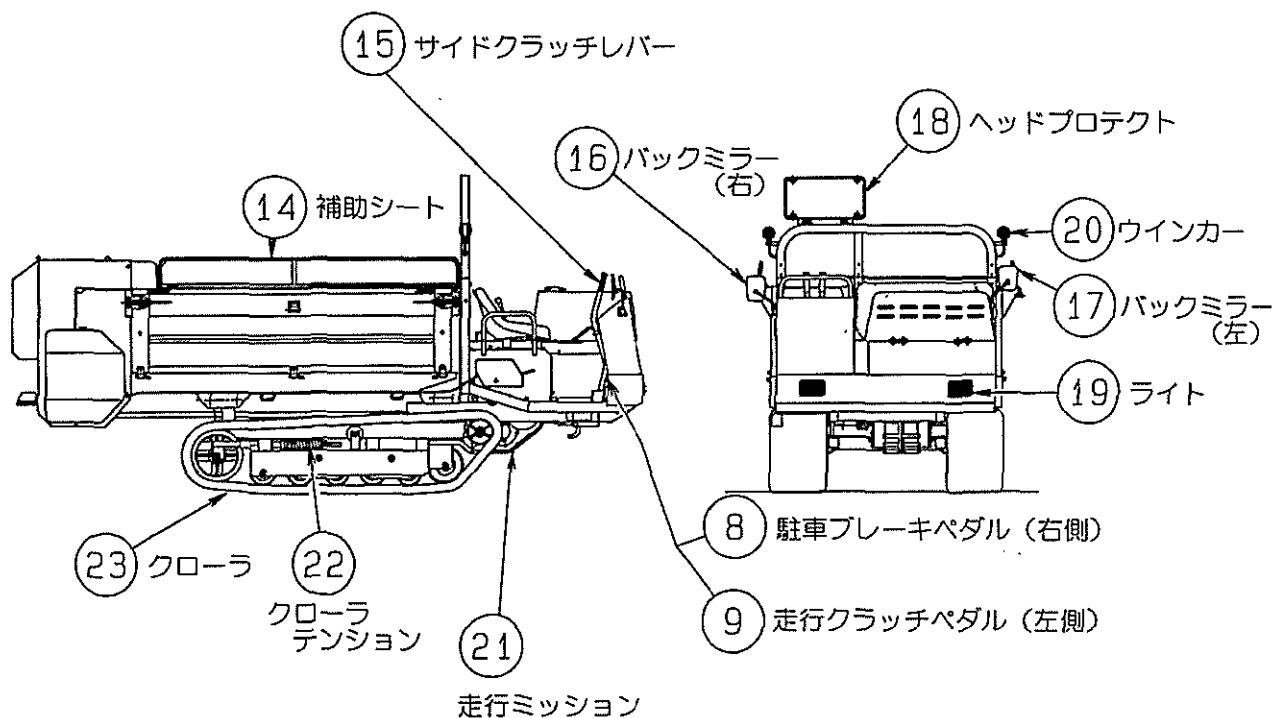
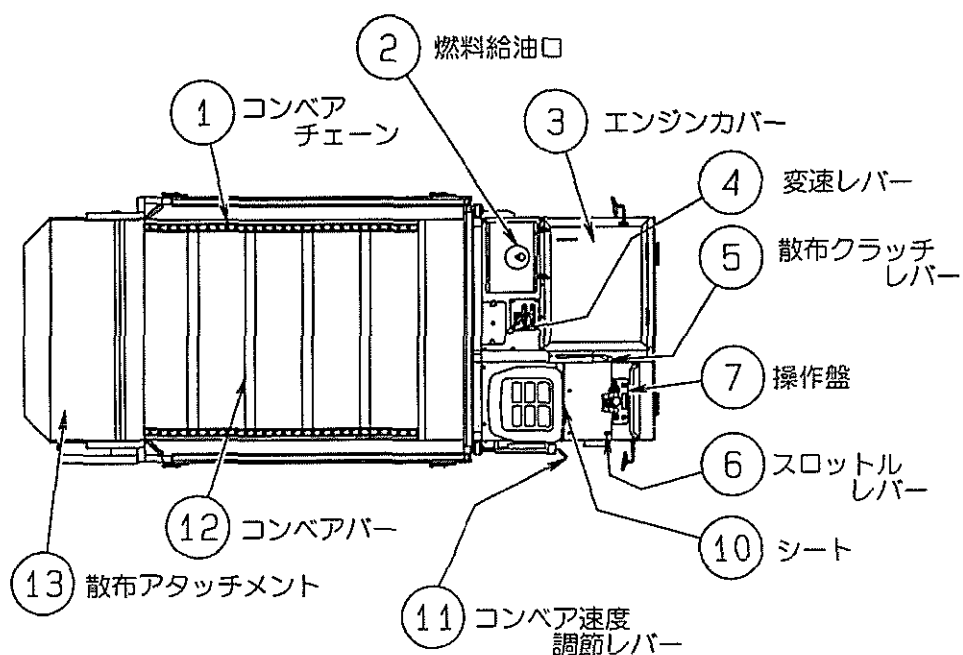
- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	自走マニアスプレッダ		
型式			
機体 No. (SER-No.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき

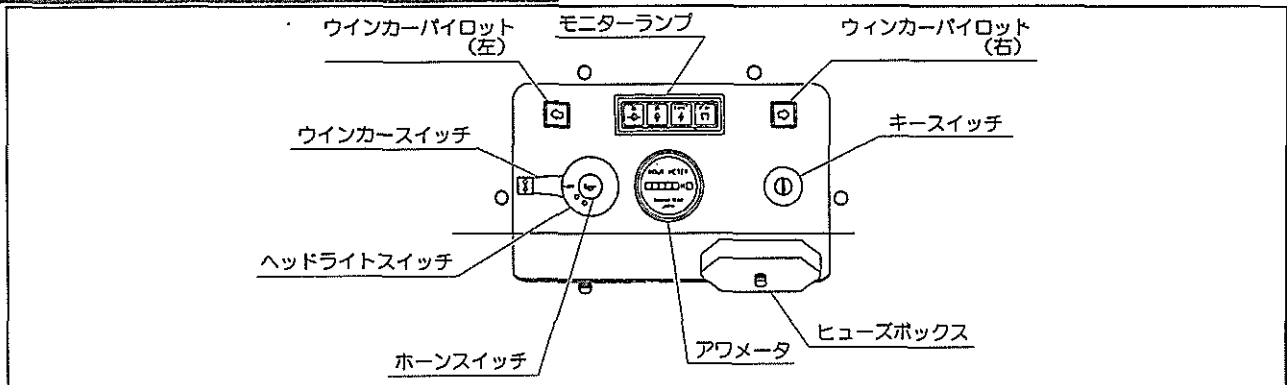


各部の名称とはたらき

番号	名 称	は た ら き
1	コンベアチェーン	積載した堆肥と散布装置に搬送するチェーン。
2	燃料給油口	エンジンの燃料タンクの給油口。エンジンの燃料は、ディーゼル軽油を使用します。
3	エンジンカバー	運転中にエンジンや動力伝達部などから作業者を保護します。
4	変速レバー	走行ミッションのギヤ比を変えるレバー。
5	散布クラッチレバー	散布アタッチメント部への動力伝達の「入」「切」を行うレバー。後ろに倒すと、動力が伝わります。
6	スロットルレバー	エンジンの回転速度を調節するレバー。
7	操作盤	アワーメータ、ホーンスイッチ、エンジンキースイッチ、ライトスイッチなど運転操作に必要なスイッチ類の集中した盤面。
8	駐車ブレーキペダル	駐車時にブレーキペダルを踏み、フックをかける。
9	走行クラッチペダル	走行の動力を「入」「切」するペダル。いっばいに踏み込むと「切」になります。
10	シート	作業者の座席。
11	コンベア速度調節レバー	コンベアの送り速度を調節するレバー。
12	コンベアバー	堆肥を後方の散布アタッチメントまで運びます。
13	散布アタッチメント	堆肥を均一に散布する部分。
14	補助シート	運搬時に堆肥が機体外へこぼれるのを防止します。
15	サイドクラッチレバー	旋回操作を行うレバー。
16	バックミラー（右）	後方確認用のカガミ。
17	バックミラー（左）	後方確認用のカガミ。
18	ヘッドプロテクト	作業者を散布物の飛散から保護します。
19	ライト	夜間での走行用照明。
20	ウインカー	点滅して旋回する方向を知らせます。
21	走行ミッション	走行部のクローラへ動力を伝達するミッション。
22	クローラテンション	クローラの張り力を調節する装置。
23	クローラ	ゴム製の走行覆帯。

運転に必要な装置の取扱い

1. 操作盤



◆モニターランプ

【油圧】

キースイッチが「ON」の位置で点灯します。エンジンが始動し、エンジンオイルが循環し始め正常な圧力になると消灯します。

エンジン油圧ランプ、チャージランプがエンジン始動後も消えない場合は、すぐ運転を中止して不調診断の頁(P. 33)に従って点検してください。

【水温】

キースイッチが「ON」の位置でオーバーヒートの状態になると点灯します。運転中に水温ランプが点灯した場合は、オーバーヒートの状態ですからアイドルリング回転で5～10分間回転させ、エンジンを冷ましてから停止させてください。不調診断の頁(P. 33)に従って点検してください。

【チャージ】

キースイッチが「ON」の位置で点灯します。エンジンが始動し、正常に充電されると消灯します。

【グロー】

キースイッチが「GL」の位置で点灯し予熱が完了すると消灯します。

◆ウィンカースイッチ

右折時には、上げると右側のウィンカーが点滅します。左折時には、下げると左側のウィンカーが点滅します。

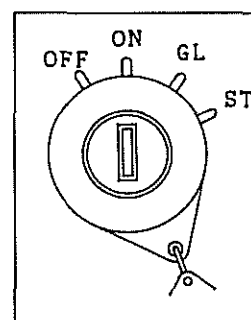
◆ホーンスイッチ

押すと警報音が鳴ります。

◆ライトスイッチ

時計回りに回すと、ライトが点灯します。

◆キースイッチ



【OFF】

電気回路に電流が流れなくなるとともにエンジンが止まります。

【ON】

電気回路に電気が流れます。

【GL】

グローランプが加熱されます。

【グローランプ】

エンジン始動時にキースイッチを「GL」位置にしますとエンジンの燃焼室が予熱されますが、それに合せてグローランプが点灯し、燃焼室の予熱状況がわかります。

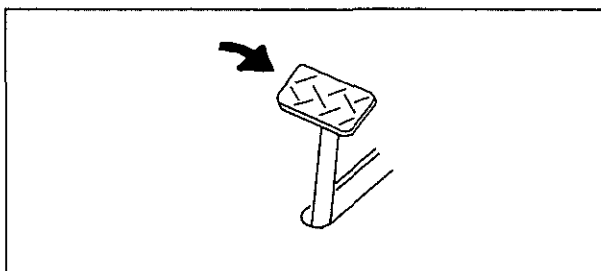
グローランプが消灯してからキーを「ST」位置に回してエンジンを始動してください。

注意

キーはエンジン運転中は必ず「ON」、停止中は「OFF」の位置にしてください。

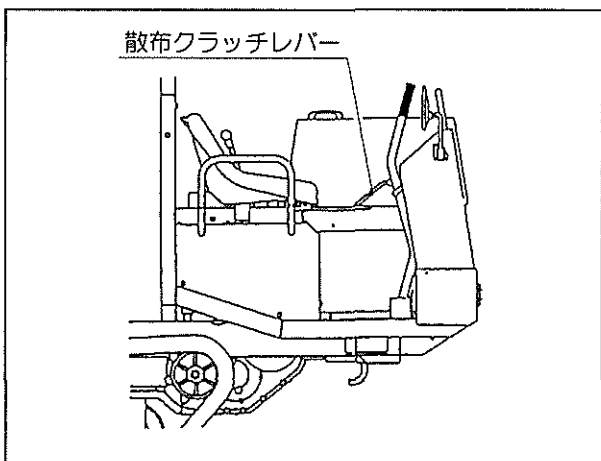
運転に必要な装置の取扱い

2. 走行クラッチペダル



左側のペダルがクラッチペダルです。
走行クラッチペダルを踏むと動力の伝達が切れます。
走行クラッチペダルから足を離すと動力が伝わります。
変速の際は、走行クラッチペダルをいっぱい踏み込み、機体が完全に停止してから行ってください。

3. 散布クラッチレバー

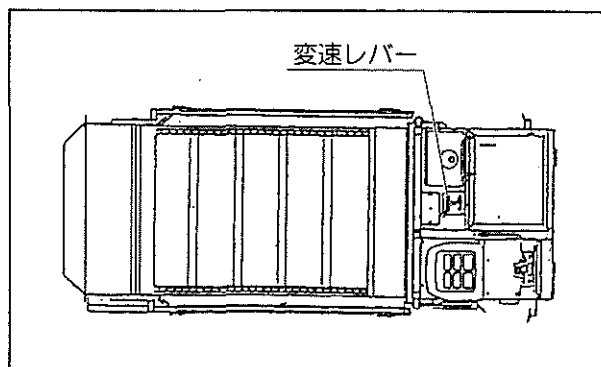


レバーを後方へ倒すとクラッチが「入」となり、マニアスプレッドが作動します。
レバーを前方へ倒すとクラッチが「切」となり、マニアスプレッドが停止します。

注意

クラッチレバーは静かに操作してください。急に入れるとベルトがスリップしてベルトの寿命を早めます。

4. 変速レバー



路面の状態により、変速レバーを操作し、速度を決定してください。

<速度表>

変速	F 1	F 2	F 3	F 4	R 1
速度	2. 1	4. 3	6. 2	9. 2	2. 6

注意

変速の際は、必ず走行クラッチペダルを踏み込み、本機が完全に停止してから行ってください。

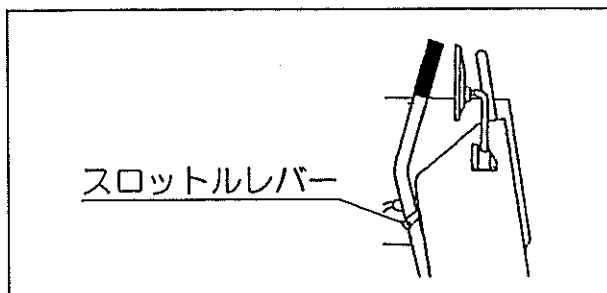
走行クラッチペダルを踏まないで変速したり、本機がまだ動いている状態で変速することは故障の原因となりますので、絶対にしないでください。

警告

エンジン始動時は、突然に動き出さないよう、変速レバーをニュートラル（中立）にするとともに散布クラッチレバーを必ず「切」にしておいてください。

運転に必要な装置の取扱い

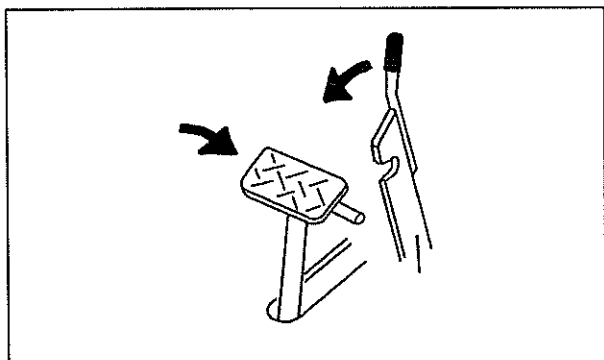
5. スロットルレバー



運転席右側にあります。

レバーを下げるとエンジン回転速度が高くなり、上げると回転速度は低くなります。

6. 駐車ブレーキペダル

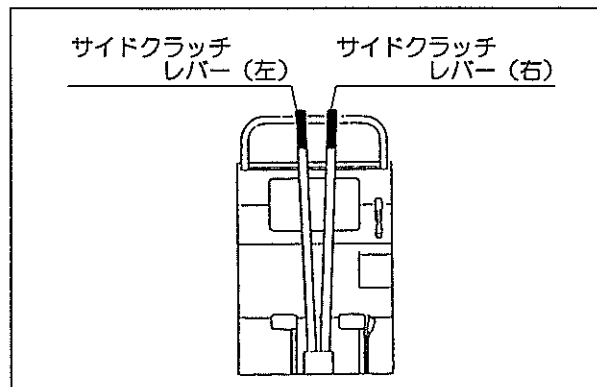


右側のペダルがブレーキペダルです。
ブレーキペダルを踏み、フックをかけると駐車ブレーキがかかります。

注意

本機から離れる時には、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。
走行中は駐車ブレーキを解除してください。

7. サイドクラッチレバー



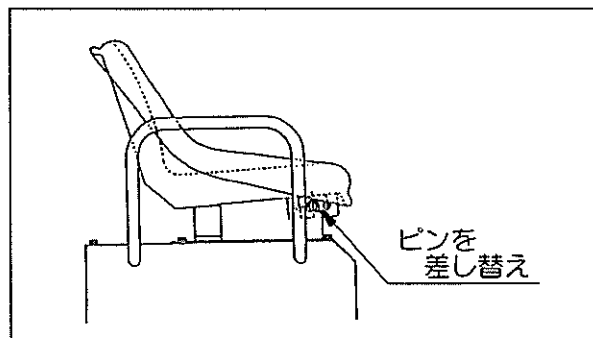
左に旋回したい時は、左のサイドクラッチレバーを手前に引いてください。

右に旋回したい時は、右のサイドクラッチレバーを手前に引いてください。

注意

- 高速走行時、サイドクラッチレバーを強く引くと急旋回して危険ですので注意してください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がからみ込む恐れがあるので避けてください。

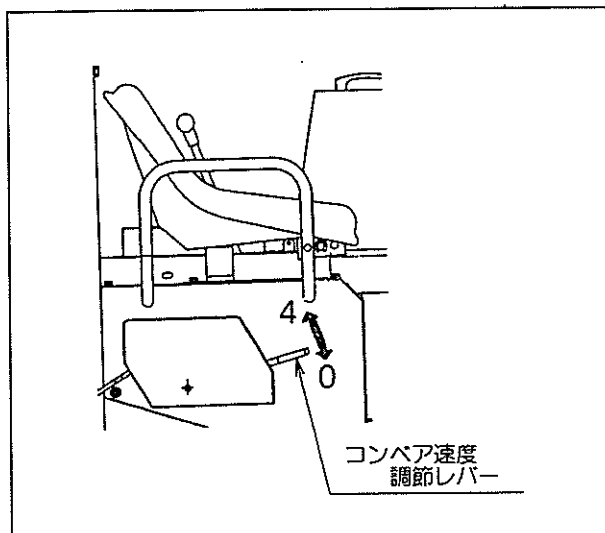
8. シート



シートは取付け部のピンを差し替えて、前後3段階の調節ができます。

運転に必要な装置の取扱い

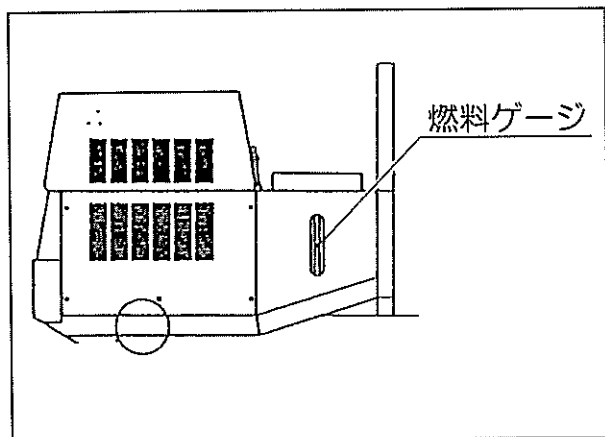
9. コンベア速度調節レバー



コンベア速度は4段階に調節ができます。「0」は停止です。「1」→「4」の順に速くなります。

レバーを調節する時は散布クラッチレバーを「入」にしてビーターを回転させながら行ってください。

10. 燃料ゲージ



燃料ゲージは本機左側面にあり、スリット部から燃料レベルが見えるようになっています。

本機を使用しない時は、燃料コックを「CLOSE」の位置にしてください。燃料コックは上手の○印部のカバーの内側にあります。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどをする恐れがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災の原因となります。

点検一覧表

項 目		内 容	参照 ページ	チェック
本機を廻って	前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行われているか	—	
	損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
	クローラの張り	適正な張力	2 8	
	エンジンオイル	オイル量と汚れ、油もれ	2 3	
	エンジンの燃料	燃料の量ともれ	2 5	
	エンジンのエアクリーナ	エアクリーナフィルタの汚れ	2 8	
	バッテリー	バッテリー液量の点検	2 7	
	配線コード	コードの被覆のはがれ、接続部の緩み	—	
	コンベアチェンの張り	適正な張力となっているか	2 9	
	各部への注油・グリスアップ	各部への給油参照	3 1	
エンジンを始動して	走行クラッチペダル	「入」「切」の作動確認、「あそび」の確認	2 8	
	散布クラッチレバー	「入」「切」の作動確認	1 3	
	左右のサイドクラッチレバー	スムーズな作動	1 4	
	ランプ・メーター・スイッチ	作動確認	1 2	
	エンジン音	異音がないか	—	

運転のしかた

1. 新車の取扱い

新車は、使用時間50時間までの取扱いが大変重要です。この時期以後の自走式マニアスプレッタの寿命、性能に大きく影響します。

◆最初の50時間目の手入れ

エンジンオイルを交換してください。

◆最初の50時間までの取扱い

- ①重作業、急発進、急ブレーキなどは避けてならし運転をしてください。無理な作業をしますと摩耗を早めます。
- ②マニアスプレッタ部のコンベアチェーンの張り具合を確認、調節を行ってください。

◆作業する前に

- ①エンジンはアイドリング（無負荷、低速回転）で暖気運転を5分間行ってください。暖気運転は、エンジンの各部の潤滑をよくし、自走マニアスプレッタの寿命を延ばします。また、冬に限らず暖気運転を行う習慣をつけてください。
- ②空ふかしはやめてください。
- ③ボルト、電気配線などのゆるみ、その他不良はないか確認してください。

2. 走行順序

⚠ 注意

- 発進するときは周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。
- 人を乗せないでください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は路肩に充分注意してスピードを落として走行してください。

- ①駐車ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを「入」にします。
- ②走行クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。
- ③変速チェンジレバーを「N」にセットします。
- ④スロットルレバーを半ストロークほど下げます。
- ⑤キースイッチを「GL」位置に回し、グローランプが消灯するまで、その位置で保守してください。
- ⑥キースイッチを回し、エンジンをスタートさせます。
- ⑦アイドリング状態にして暖気運転をしてください。（エンジンが温まっている時は、暖気運転は不要です。）
- ⑧変速レバーによりF1、F2、F3、F4、R1のいずれかに合わせます。
（走行ペダルを踏んだ状態で変速してください。）
現場の状況や積載重量に合わせ、速度を決定してください。
- ⑨ブレーキペダルから足を離し、走行クラッチペダルから足を離すと、クラッチがつながり走行します。
傾斜地では駐車ブレーキペダルを戻すと同時に走行クラッチペダルから足を離しブレーキが切れると同時に走行クラッチが入るように操作してください。

⚠ 注意

- 変速操作を行うときは、それぞれのシフト位置になるように、確実に変速レバーを操作してください。また、凸凹の不整地の高速走行や傾斜地での過積載走行は、変速レバーがシフト位置から外れる要因となりますので厳禁としてください。

運転のしかた

注意

- メインスイッチを「ST」にし、セルスタータを回して10秒たっても始動しない時は、いったんメインスイッチを切って、30秒ほど休止してからエンジンを再始動してください。15秒以上の使用は、故障の原因になります。
- エンジンが始動すれば、5～10分間暖気運転し、その後作業に入ってください。(長持ちするための秘訣です。)
- エンジン回転中はキーを「ST」位置にしないでください。
セルモータが破損します。

3. 停止順序

- ①走行クラッチペダルを踏み込みます。
- ②ブレーキペダルを踏み、フックをかけます。
- ③変速チェンジレバーを「N」にします。
- ④スロットルレバーを戻し、エンジン回転を下げます。
- ⑤キースイッチを「OFF」にします。

注意

- 坂道の停車ではエンジン停止後、変速レバーの位置をF1、R1にしてから下側のクローラと地面の間に車止めをしてください。
- 停止後は必ずキースイッチを切ってキーを抜き、キャップをしてください。
メインスイッチを入れたままですと、バッテリーのあがる原因になります。

4. トラックへの積込み・積降ろし

長距離の移動はトラックで行いますが、積込み・積降ろしの際は次の要領で行ってください。

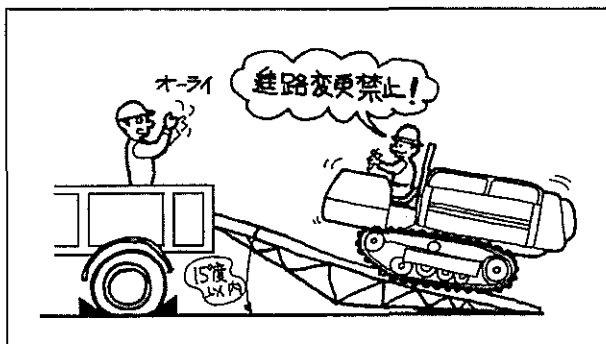
思わぬ事故につながる可能性がありますので積込み、積降ろしとも十分に注意してください。

警告

- 積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。
- アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実にかけてください。
- 周囲は機械が不意に動いたときに危険
- サイドクラッチを操作して、アユミ板の上では進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて転倒する恐れがあります。
- アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので十分に注意してください。
特に、スピードの速いときには転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

- ①トラックおよびトレーラへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者1名の立会いのもとで行ってください。
- ②積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めのある、1500kg以上の荷重に耐えられるものを使用し地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。
- ③アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実にかけて外れないことを確認してから、本機の積降ろしを行ってください。
- ④積込みの時の車速は「F1」に積降ろしの時の車速は「R1」に入れ、最低速度で安全運転をしながら行ってください。
- ⑤トラックおよびトレーラへの積込みは必ず、前進走行で行ってください。

運転のしかた

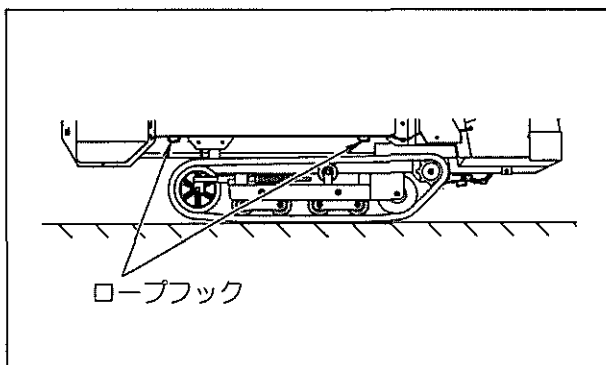


5. トラックおよびトレーラでの運搬

！ 警告

丈夫なロープをクローラ上部の「ロープフック」にかけ、確実に固定して自走マニアスプレッドの駐車ブレーキを掛けておいてください。

守らないと、トラックの急ブレーキをかけた時などに荷台から自走マニアスプレッドが転落する恐れがあります。



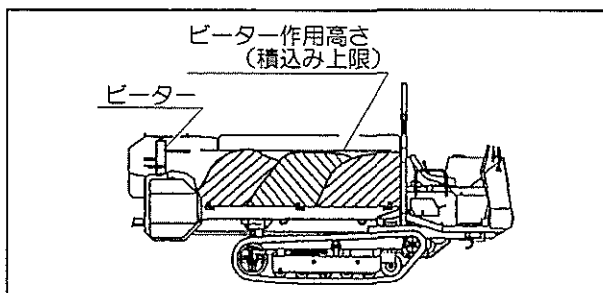
自走マニアスプレッドを運搬するときは積載量1.5ton以上で十分な広さを有するトラックまたはトレーラを使用し運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

作業方法

1. 堆肥の積み込み

警告

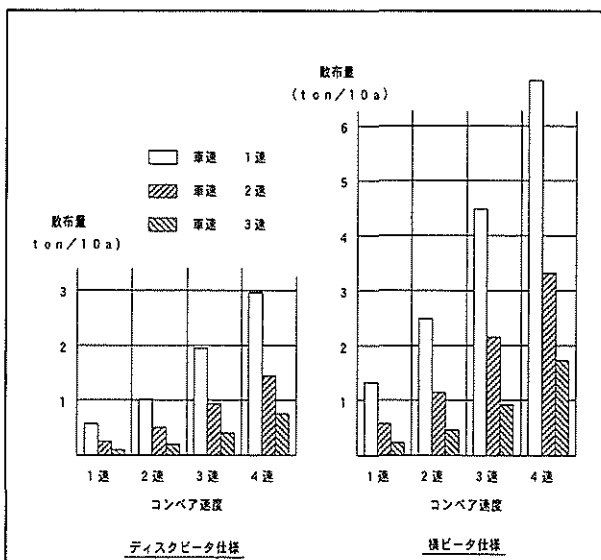
- 堆肥に石や木片が混入すると危険です。積み込む時に充分注意してください。
- 規定以上の積み込みを行うと機械の破損だけでなく、安全走行・作業が行えません。充分注意してください。



堆肥を荷台に積み込む場合には前方から後方の順に積み込むと、堆肥がほぐれやすく、また積み込み高さはビーターの作用高さまでとしてください。

それ以上の積み込みは、堆肥のこぼれや散布ムラ、機械の故障の原因となります。また、ワラ入り未完熟堆肥のような負荷の大きい堆肥を散布する時は、積み込み量を若干少なくするようにしてください。

2. 散布量の調節



堆肥の散布量は送りコンベア速度と車速（作業速度）とで調節します。

コンベア速度は、コンベア速度調節レバーで4段階に調節できます。

前表を目安に10a当りの希望の散布量に合ったコンベア速度と車速を決めてください。

注意

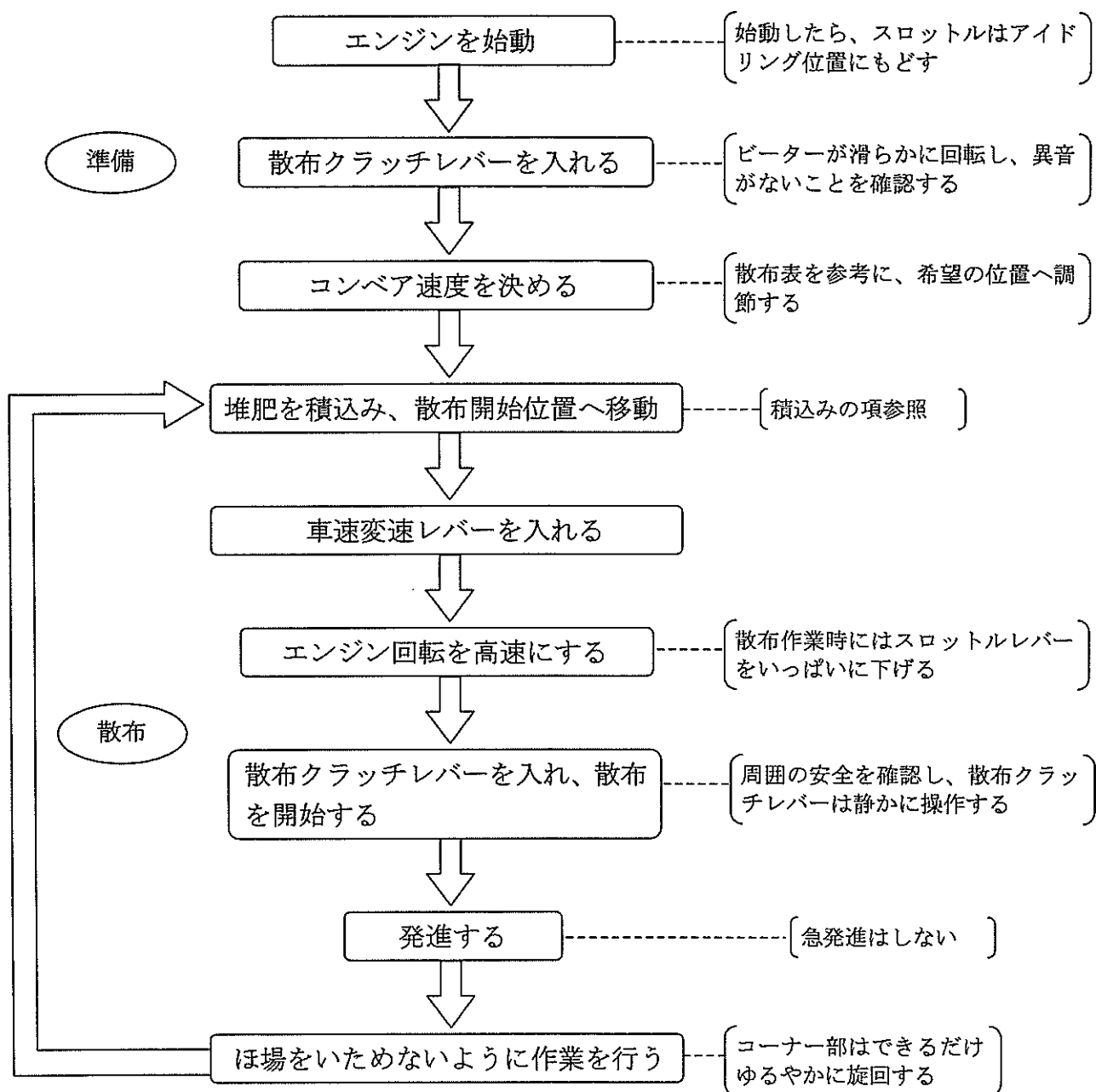
- コンベア速度はむやみに速くすると、エンジンや堆肥の送り機構に無理な力がかかります。
- 散布表はあくまで目安としてください。堆肥の状態により散布重量は異なりますので、実際の散布量を見て調節してください。

警告

回転中のビーター・コンベアバー・コンベアチェーンに巻き込まれると重傷を負います。手や足で絶対に触れないようにしてください。

作業方法

3. 作業手順と要点

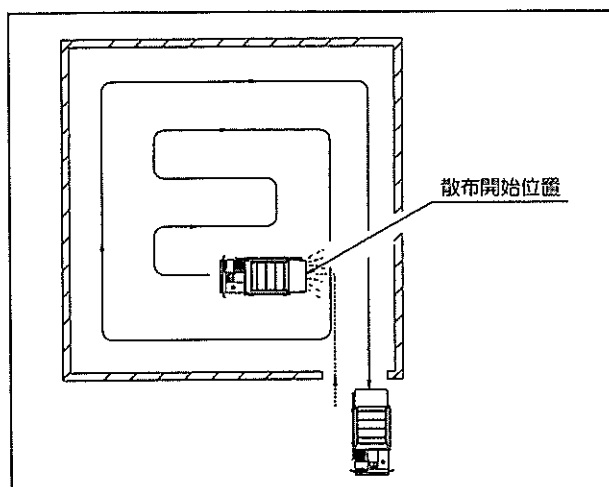


注意

- 最終散布で堆肥がヒーター近くにきたら、エンジン回転を下げて散布してください。
(最後の少量が運転席の方向に飛び散るのを防止するためです。)
- 散布を続ける場合は少量を残し、再び積込みを行ってください。

作業方法

4. 散布方法



散布方法は、ほ場の中央部より外側に向かって散布します。

中心部は往復散布、ほ場の外側は廻り散布を行うと能率的でクローラへの堆肥付着も少なくてすみます。

注意

- 散布は車速 1 速から 3 速で行ってください。ならし運転期間中は 1 速で行ってください。
- 傾斜地では、作業に充分注意して安全速度で行ってください。

！ 注意

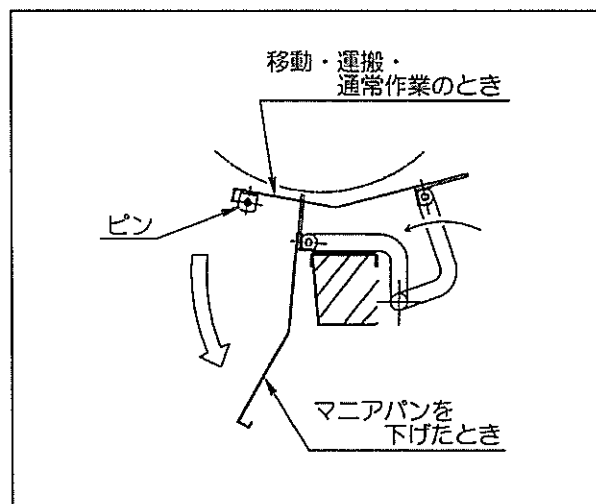
- 散布作業時は、周囲に人がいないか十分に注意してください。
- 散布中は、堆肥中に混入した小石などが前方へ飛散する場合がありますので決してマニアボックス内へ顔を出さないでください。

5. 最後の散布

横ビータの場合、最後に残った堆肥を落としてたりする場合は、下図のようにマニアパンを下げると最後まで堆肥を落とすことができます。

◆下げる手順

- ① ピンを抜く
- ② マニアパンを引き出してから下方へ下ろす。
- ③ エンジン回転を低速にし、ゆっくりと散布する。



！ 注意

- マニアパンの着・離脱を行うときは、エンジンを停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 堆肥の積載量が少なくなってきたときには、前方へ堆肥・小石などが飛散しやすくなるのでエンジン回転速度は低速にしてください。

注意

移動・運搬・通常作業の時には、マニアパンは上げてください。

◆上げる順序

- ① マニアパンを引き上げ、ピンをセットする。

簡単な手入れと処置

1. エンジンの点検・調節

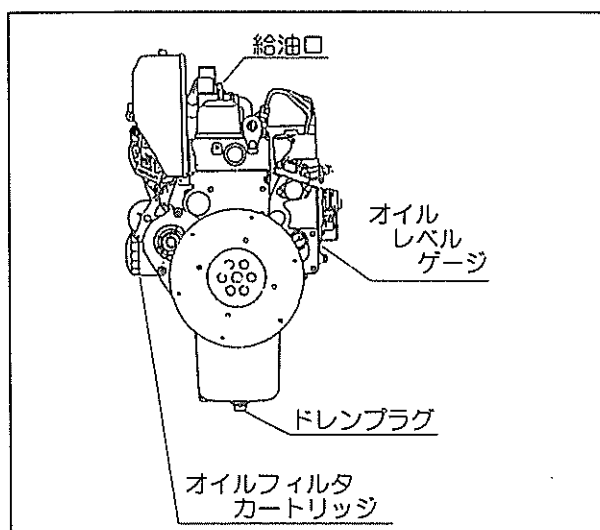
※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」も必ずお読みいただき、日常の点検・整備には万全の注意をお願いします。

2. オイル類の点検および交換

オイルの交換は、エンジンが安全な温度まで下がったときに、水平な場所で行ってください。古いオイルの排出が容易です。

オイルは指定のオイルを使用してください。

◆エンジンオイル



ドレンプラグを外し、古いオイルを排出します。完全に排出し終わってからドレンプラグを締め、新しいエンジンオイル 5. 1ℓを給油し、レベルゲージで確認してください。

エンジンオイルは指定のものをご使用ください。

こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

●エンジンオイル交換

初 回 : 50時間目
以 後 : 100時間ごと
指定オイル: D10W30
オイル容量: 5. 1ℓ

◆オイルフィルタカートリッジ

フィルタカートリッジを外します。
新しいカートリッジのシール部にオイルを薄く塗り、手でカートリッジを十分に締付けます。

200時間毎に新しいフィルタと交換してください。

●オイルフィルタ交換

200時間毎

注 意

カートリッジを交換した時は、エンジンオイルが少なくなるので、しばらく運転した後、シール面からの油もれがないかを確認してください。

さらに、オイルゲージでオイルの量も必ず確認し、規定油面まで補給してください。

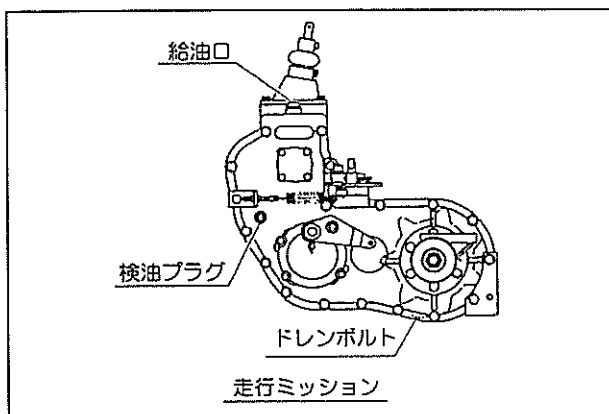
! 注 意

エンジン停止直後はマフラーやマフラーカバー、ラジエータ、配管、エンジン本体、冷却水およびエンジンオイルが熱くなっています。手や肌が触れるとやけどの危険があります。

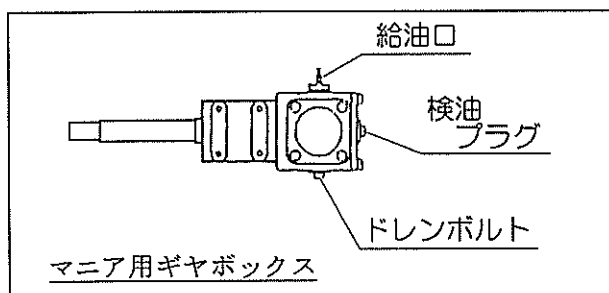
オイルの点検、補給、オイルやオイルフィルタカートリッジの交換は安全な温度まで下がった状態で作業してください。

簡単な手入れと処置

◆ミッションオイルの交換



ドレンボルトを外し、古いオイルを排出します。完全に排出し終わってからドレンボルトを締めます。走行ミッションオイルの検油プラグを外し、給油口より下表指定オイルを10ℓ入れてください。検油口よりギヤオイルがあふれましたら検油プラグを締めます。



マニア用儀やボックスも同様にオイル交換を行ってください。
給油量はギヤオイル0.5・です。

●オイル交換

初回：300時間目

以後：500時間毎

指定オイル：

マニア用ギヤボックス

●ギヤオイル#90

走行ミッション

●シェル ドナックス

●出光アポロイルギヤTH

●モービル モービルランド
スーパーユニバーサルJ

●コスモ TF300

3. ラジエータの点検

! 注意

ラジエータキャップはエンジン運転中または停止直後に開けると熱湯が噴出し、火傷する危険性がありますので、エンジン停止後30分以上たって冷却水が冷えてから開けるようにしてください。

◆冷却水の交換

①ラジエータのシリンダブロックの排水コックを緩め、ラジエータキャップを開いて冷却水を排出します。

排水が終了したら排水コックを締めて冷却水を入れます。

冷却水には水道水が最適です。その他の水は入れないでください。

②購入された時点で不凍液が入っていますので、-25℃まで凍結しません。

冷却水交換の時、水道水など真水だけを使用すると冬期間に凍って、ラジエータやシリンダブロックなどを破損させる恐れがあります。パーマネントタイプを利用し、水道水と混合します。

混合率はメーカーの注意書に従ってください。

注意

不凍液には防錆剤が入っています。種類の異なる不凍液や防錆剤は混合しないでください。

混合しますとスラッジが発生して、エンジン各部に悪影響を与えます。また、不凍液の有効使用期限は2年です。

それを過ぎると防錆効果が次第に悪くなります。

簡単な手入れと処置

◆ラジエータの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水（圧力水）で流してください。

注意

ヘラやドライバーなどの固いもので清掃しないでください。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。フィンの奥の方は圧縮空気ですべて清掃してください。

◆ラジエーターホースの点検

ラジエーターホースの締め付け点検は、約150時間運転毎にまたは、6ヶ月毎に行ってください。

- ①締め付けバンドが緩んでいる場合は、ネジ部にオイルを塗布して確実に締め付けてください。
- ②ラジエーターホースはゴム製品で、使わなくても老化する消耗品です。2年毎に新品と交換してください。なお、その際に締め付けバンドも新品と交換して確実に締め付けてください。

4. 燃料について

燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。

⚠ 注意

- 燃料の補給、燃料フィルタの清掃・交換・燃料パイプの交換など燃料系統の整備時は必ずエンジンを停止して、くわえタバコや火気の近くで作業しないでください。
- 上記燃料系統の整備時は風通しの良い広い場所で行ってください。
- こぼれた燃料が高温部で着火する可能性のある場合は、エンジンが冷えてから作業してください。
- こぼれた燃料はいつもきれいに清掃してください。

◆燃料の補給

スタンドでは全国の地域別、季節別の軽油使用ガイドラインに基づき、地域、季節に見合った種類の軽油が販売されています。

季節にまたがって使用する場合は特に問題となりますのでご注意ください。軽油のJIS改正により、夏期及び暖地向けとして特1号軽油が追加になりました。この軽油は成分中に含まれるパラフィン分が多く、気温が5℃以下になると燃料中にワックスが発生して、流動性が悪くなります。このため、エンジンの始動が困難になったり、始動しても運転が継続できなくなりますから、次のことに注意してください。

注意

- 軽油を購入の際は、何号軽油か、いつまで使用可能かスタンドで必ず確認し、容器に明記してください。
- 季節にまたがって使用するもの、ドラム缶などで大量に購入するときは冬期に購入するなど、あらかじめ最低使用温度に合った燃料を購入してください。
- 夏期に軽油を購入する場合は、最低必要限度にしてください。

温度と使用する軽油の種類

軽油は下表の流動点以下になると流れが悪くなります。

軽油の種類	特1号	1号	2号	3号	特3号
流動点（℃）	+5	-5	-10	-20	-30

例えば、作業する時の最低気温が-8℃ならば、2号軽油（または3号か特3号）を使用します。

2号軽油は上表より-10℃まで使用できます。

簡単な手入れと処置

◆燃料フィルタ

本機には燃料プレフィルタと、燃料ストレーナを装備しています。

燃料プレフィルタは、600時間毎に交換してください。

燃料ストレーナは、200時間毎に交換してください。

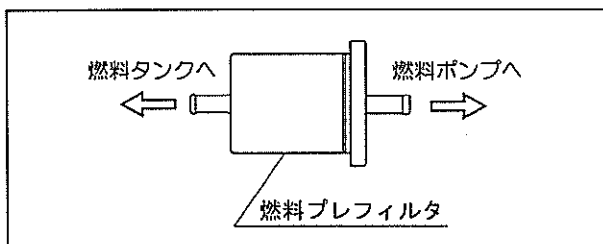
●燃料フィルタ交換

燃料プレフィルタ 600時間毎

燃料ストレーナのフィルタ

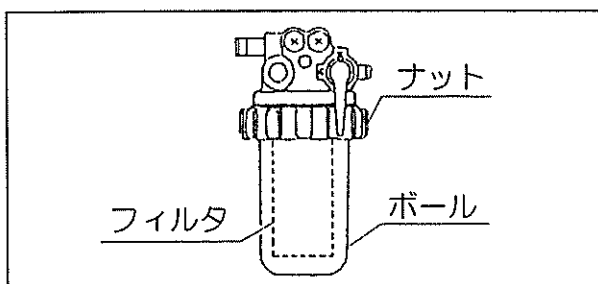
200時間毎

●燃料フィルタ交換要領



- ①燃料ポンプの「IN」側の配管を外して燃料を抜いてください。
- ②燃料プレフィルタの両側のクランプを外し、配管を外します。
- ③ボルトを緩めたらフィルタを取外してください。
- ④新しいフィルタをボルトで取付けてください。
- ⑤両側の配管を付け、クランプで固定します。

●燃料のストレーナのフィルタの交換要領



- ①フィルタのナットを緩め、フィルタを外

してください。

- ②ボールをきれいにし、新しいフィルタを入れてください。
- ③取付け時にパッキンに燃料を薄く塗布してください。
- ④フィルタのナットを締付けてください。

注意

取付ける時は、チリやホコリが付着しないように注意してください。燃料内にチリやホコリなどが混入すると、燃料噴射ポンプやノズルが摩耗します。

◆燃料パイプの点検

燃料パイプの締め付け点検は50時間使用毎、または6ヶ月毎に行ってください。

- ①締め付けバンドが緩んでいる場合は、ネジ部にオイルを塗布して確実に締付けます。
 - ②燃料パイプや締め付けバンドが傷んでいたり、燃料パイプがきっちりおさまっていなかったりした場合は早めに交換、または補修をしてください。
 - ③燃料パイプはゴム製品で、使わなくても老化する消耗品です。2年ごとに新品と交換してください。
- なお、その際は締め付けバンドも新品と交換して確実に締付けてください。

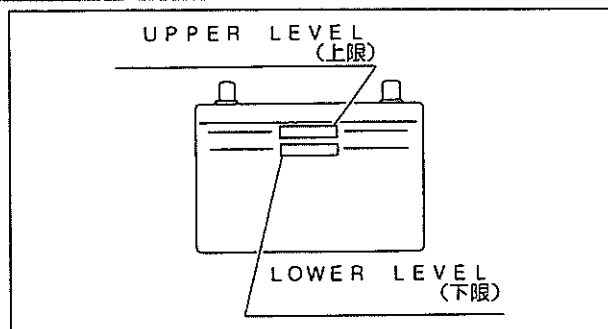
注意

パイプを外した時は、ゴミが入らないようにパイプ両側に清潔な布、または紙類で栓をしてください。

ゴミが入ると、燃料噴射ポンプが作動不良になります。

簡単な手入れと処置

5. バッテリーの液量



バッテリーの電解液中の水は、蒸発して減少します。液面が、LOWER LEVEL と UPPER LEVEL の間にあれば適正です。少ない時は、蒸留水またはバッテリー補充液を補給してください。

⚠ 注意

- バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は（－）側から外し、取付ける時は（＋）側から行ってください。逆にすると、工具がマニアスプレッダ本体に当たった場合に、**ショートして火花が生じ危険です。**
- バッテリーにケーブルを接続するとき（＋）と（－）を間違えないようにしてください。もし間違えると、バッテリーや電装品を破損させます。
- バッテリー液は過不足がないようにしてください。多いと液があふれてマニアスプレッダ本体を腐食させ、少ないとバッテリーの極板が破損し、寿命が短くなります。
- 冬期間は充電不足にならないように注意してください。放電ぎみですと電解液が凍り、バッテリー本体を破損させる場合があります。
- 長期間マニアスプレッダを使用しない場合は1～2ヶ月に1度は補充してください。定期的に比重を測定し、バッテリーの状態を確認してください。

比 重 1.22～1.28

⚠ 危険

バッテリーは引火性ガスを発生しますので取扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。

特に保守、点検、充電、ブースターケーブル使用時には危険のないように取扱ってください。

● 火気厳禁

・ タバコなどの火気を近づけない
でくださ ⇒ **爆発**

● 通風のよい所で

・ ・ ・ 締めきった場所での使用や充電は危険です。 ⇒ **爆発**

● バッテリー液は希硫酸

・ ・ ・ 皮膚、目、衣服につくと危険です。
⇒ **やけど、失明**

《応急手当》

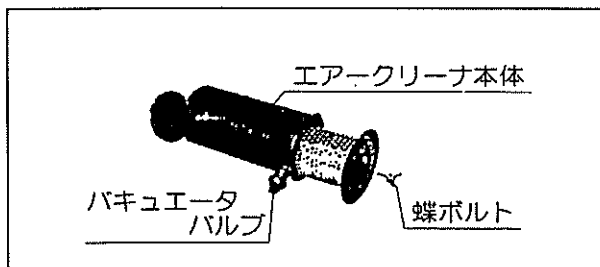
● 皮膚、衣服についた時は、多量の水で洗ってください。

● 目についた時は、ただちに多量の水で洗い、医師の治療を受けてください。

簡単な手入れと処置

6. エアクリーナの点検

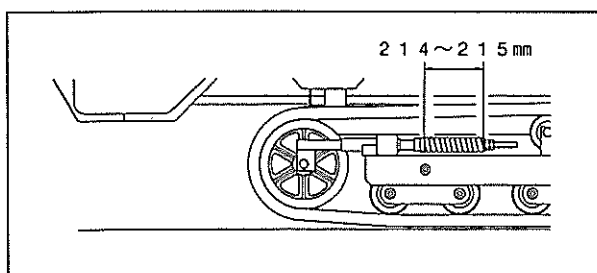
- ①乾式エレメントを使用していますのでオイルを入れないでください。
- ②普通の場合は1週間に1回、特にチリやホコリの多い場所では毎日バキューエータバルブを開いて大きなゴミを取除いてください。
- ③エレメントは、清掃以外不要にさわらないでください。
- ④エレメントの清掃は、エレメントに貼り付けてある注意書を参照の上、清掃してください。
- ⑤エレメントは1年毎または、6回清掃ごとに交換してください。



注意

エレメント締め付け用蝶ボルトは、確実に締めてください。締め付けが不十分ですと、ゴミなどを吸い込んでシリンダやピストンリングの摩耗を早め、出力不十分になります。

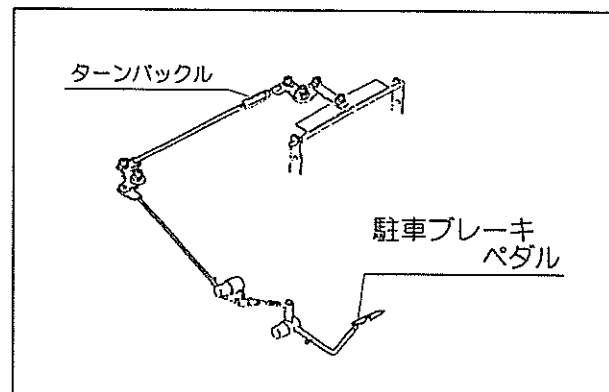
7. クローラの点検



クローラの緩みや、傷がないか確認して下さい。

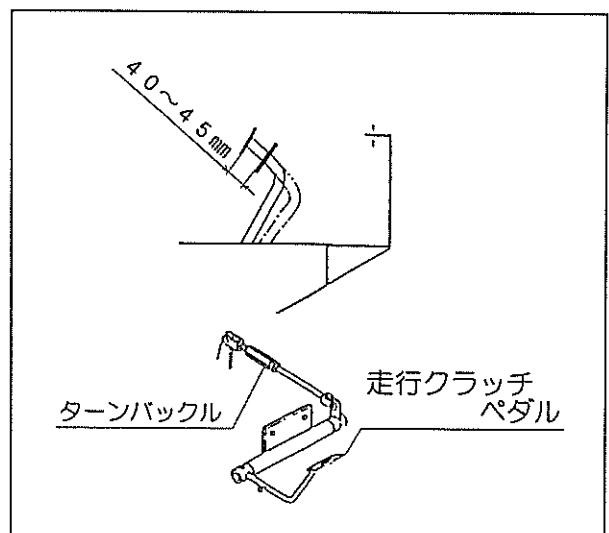
張力の目安はスプリング長が214～215mmになるようにクローラを張ってください。

8. 駐車ブレーキの点検



ブレーキの効きがあまくなったら調節ネジのターンバックルを回し、ペダルのあそびが20mmになるよう調節してください。

9. 走行クラッチの点検

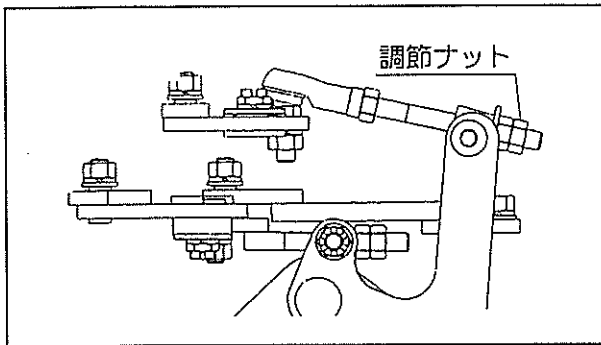


本機のクラッチは、多板クラッチ方式となっておりますので、クラッチ板が摩耗しますとペダルのあそびが少なくなってきます。

ペダルのあそびが30mm以下になりましたらペダルのあそびが40～45mmになるようタンバックルを回して調節してください。

簡単な手入れと処置

10. サイドクラッチの点検



サイドクラッチレバーをいっぱいに引いても曲がらなくなったときや、片側のクローラが停止しなくなったときは、調節ナットを1回転ずつ回し調節してください。

1度に多く回し調節すると、故障の原因となりますのでご注意ください。

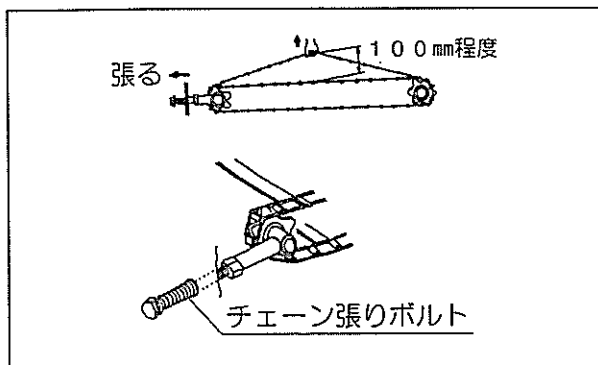
⚠ 注意

ブレーキ、クラッチ、サイドクラッチ、などの操縦装置の調節の不備は思わぬ事故の原因になります。
販売店や整備工場で点検・調節をするようにしてください。

11. コンベアチェーンの張り調節

床送りのコンベアチェーンは、長期間使用すると伸びが生じます。

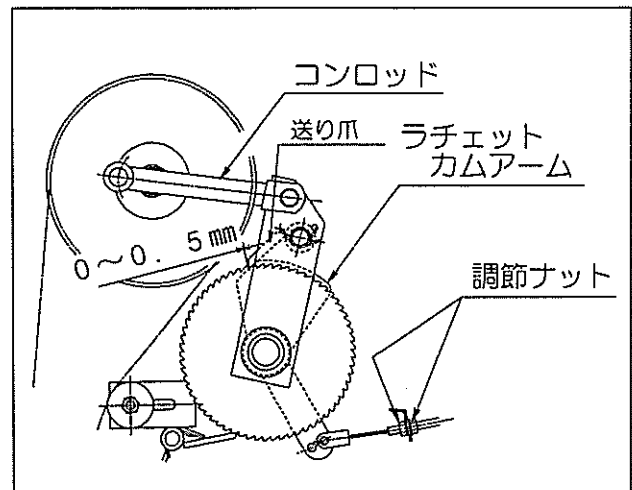
時々、張り具合が規定通りかどうかチェックし、伸びている場合は、機体の前方にあるコンベアチェーン張り用のボルトで調節してください。



注意

使用初期のころは、スプロケットとコンベアチェーンのなじみが悪く、いきなり使用するとコンベアチェーンが切れる場合がありますので3～4分ならし運転をし、コンベアチェーンの張りを点検してから使用してください。

12. コンベア送り機構部の調節

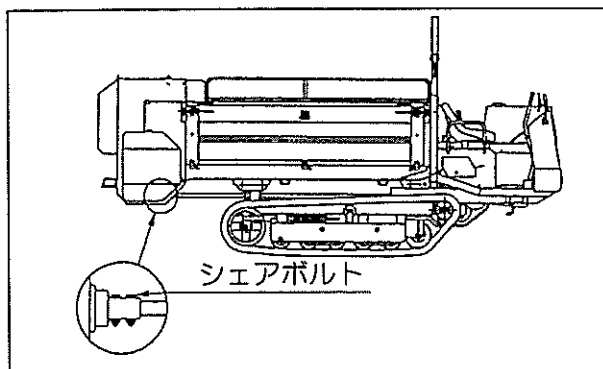


コンベア送りの速度がばらついたり、機構部の部品を交換したときは、コンベア送りのコントロールワイヤーを次の要領で調節してください。

- ① ビーターを手で回して、コンロッドが「引き」から「押し」に変わる支点位置にします。
- ② 送り爪とラチェットカムアームとの間隔が0～0.5mmとなるように、ラチェットカムアームの位置をワイヤーケーブルのナットで調節してください。

簡単な手入れと処置

13. シェアボルトの交換

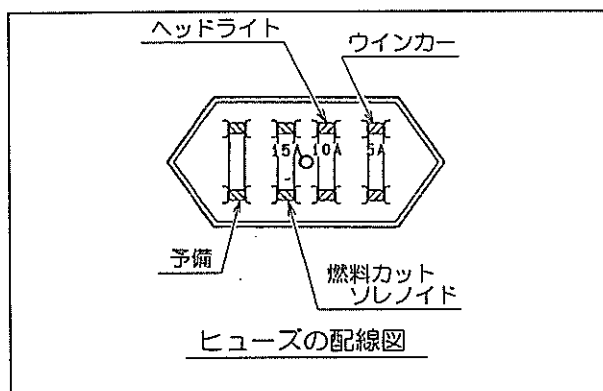


本機の散布部に無理な負荷がかかった時大きなダメージを与えないようにマニータ車部の後部のカップリングにシェアボルトがあります。切れた時は、負荷原因を取り除き、必ず指定のボルトを使用してください。

●指定ボルト

M10×60 (8T)・・・1本

14. 電気系統の点検



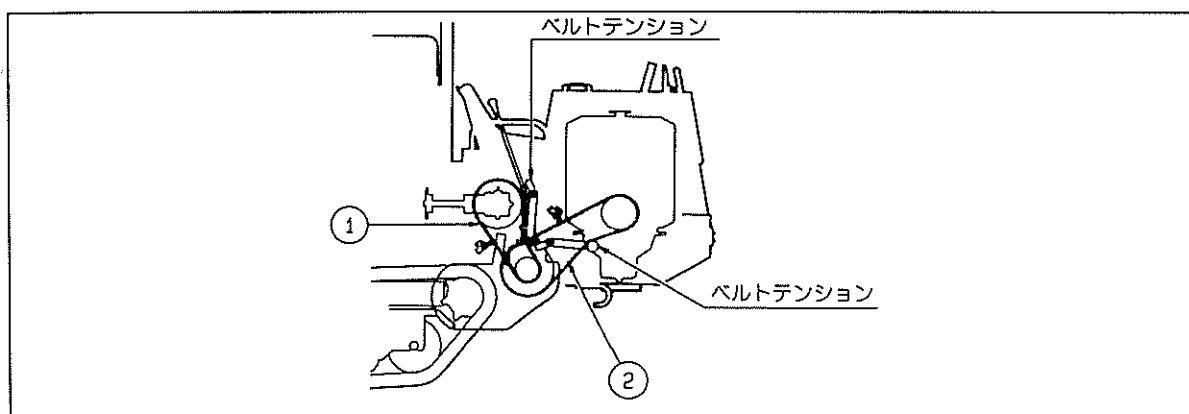
ライト、ウinkerなどが正常に作動しない時は、電気系統を点検してください。

●点検項目

- ①スイッチの不良
- ②結線の断線
- ③電球切れ
- ④ヒューズ切れ

不良時は
交換してください。

15. 各部ベルトの調節



各Vベルトの調節は下表に従い、行ってください。

ベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。複列プーリーを使用しているのでベルトは全てセットで同時に交換してください。

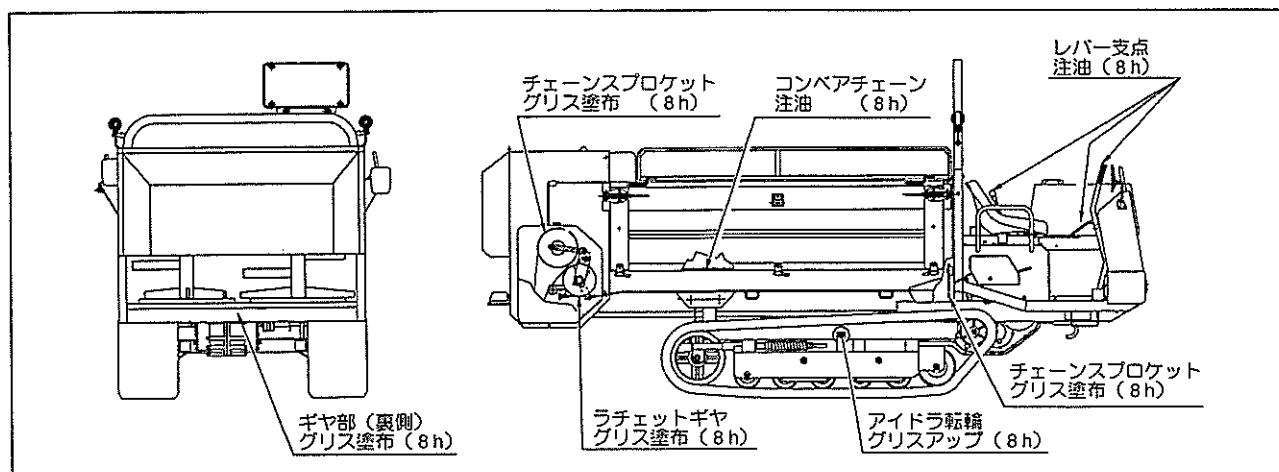
ベルトのサイズ	調節方法	張りの程度
① LB-37 (2本) オレンジベルト	ベルトテンションでベルトの張りを調節します。	ベルトの中央部を指で押し (約3kg) 10～15mmのたるみがあること。
② LB-51 (3本) オレンジベルト		

簡単な手入れと処置

16. 各部への注油、グリスアップ

主な給油箇所を下図に示します。

指定時間毎に注油、グリスアップを行ってください。



作業条件が悪い場合や、連続作業で稼動時間が長いときは指定時間より早めに注油、グリスアップを行ってください。

17. 長期格納

長期にわたってご使用にならない時は、次のことを行ってマニアスプレッダを保管してください。

◆燃料

- 燃料タンクから燃料を完全に抜いてください。
- パイプ内にある燃料は、エンジンをかけて使い切ってください。

◆サビ

- すべてのしゅう動部分の破損、キズ、サビなどを点検してください。
- 荷台などのサビやすい金属部分にはオイルを塗布してサビ止めを行ってください。

◆バッテリー

できるだけ機体から取外して液を規定量にして充電し、日光の当たらない乾燥した所に保管してください。やむを得ず、本機に取付けたまま保管する時は、必ずアース側（一側）を外してください。

◆洗車

各部に付着した泥や堆肥を落として、水洗いをしてください。特に荷台、足回りは丁寧に洗浄してください。

◆グリス

各給油箇所にはすべてオイルまたは、グリスを給油してください。

◆カバー

きれいな乾燥した場所にカバーをかけて保管してください。

◆ラジエータ

冷却水は、冬期の凍結防止のため排水するか、不凍液を水に混ぜて入れてください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●セルモータが回転しない	●バッテリーが放電している ●セルモータの不良 ●キースイッチの不良	●充電する ●修理または交換する ●交換する	2 7 — —
●エンジンが始動しない	●燃料切れ ●燃料系統に空気が入っている ●燃料フィルタの目詰まり ●グローランプが断線している ●エアクリーナエレメントの目詰まり	●燃料を補給する ●燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料パイプの空気抜きをする ●洗浄または交換する ●交換する ●清掃または交換する	2 5 — 2 6 — 2 8
●エンジンが不規則に回転する	●燃料系統に空気が入っている ●燃料に水が混入している ●噴射ノズルが不良 ●燃料フィルタの目詰まり ●軽油以外の燃料を使用した ●噴射ポンプの不良	●燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料パイプの空気抜きをする ●水抜き、または新しい燃料と交換する ●修理または交換する ●洗浄または交換する ●軽油に入れ換える ●修理または交換する	— — — — —
●運転中エンジンが停止した	●燃料切れ ●燃料系統に空気が入っている ●燃料フィルタの目詰まり ●過負荷運転をした ●燃料に水が混入している	●燃料を補給する ●燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料パイプの空気抜きをする ●洗浄または交換する ●負荷を軽くする ●水抜き、または新しい燃料を交換する	2 5 — 2 5 — —

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●エンジンがオーバー ヒートした	●シリンダブロックフィン の目詰まり ●冷却水の不足 ●エンジンオイルの不足 ●ファンベルトの切れ ●過負荷運転をした ●ラジエータフィンの目詰 まり	●清掃する ●冷却水を補給する ●エンジンオイルを補給する ●交換する ●負荷を軽くする ●清掃する	— 2 5 2 3 — — 2 5
●マフラーより白煙が 出る	●エンジンオイルの量が多 すぎる ●エンジンオイルの粘度が 低すぎる	●オイルを適量になるまで抜き 取る ●適度な粘度のオイルにする	2 3 2 3
●マフラーより黒煙が 出る	●エアークリーナエレメン トの目詰まり ●過負荷運転をした	●清掃または交換する ●負荷を軽くする	2 8 —
●チャージランプが消 灯しない	●ヒューズが切れている ●ファンベルトが緩んでい る ●ファンベルトが切れてい る	●配線系統を点検、修理して新 しいヒューズを交換する ●張りの調節をする ●交換する	3 0 — —
●ブレーキの効きが悪 くなった	●ミッションオイルが不足 している ●ミッションオイルの粘度 が低下している	●オイルを補給する ●新しいオイルと交換する	2 4 2 4
●サイドクラッチの効 きが悪くなった	●レバーのあそびが大き すぎる ●ライニングが摩耗してい る	●あそびを調節する ●交換する	— —

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●走行しない	●ベルトが切れている ●クラッチが摩耗している ●ベルトがスリップする	●ベルトを交換する ●クラッチ調整、またはクラッチ板を交換する ●ベルトの張りを調節する	3 0 2 8 3 0
●散布しない	●ベルトがスリップする ●シェアボルトが切れている ●床送りが動いていない	●ベルトの張りを調節する ●シェアボルトを交換する ●送りレバーを入れる	3 0 2 9 1 2
●散布量が少ない	●床送りコンベアの調節不足 ●ビーターに長ワラ、草などが巻付き、ビーターの作用が不十分	●コントロールワイヤーを調節する ●巻きついているものを除去する	1 2 —
●散布幅が狭い	●ベルトがスリップしている ●羽根が変形して、脱落している ●堆肥を積みすぎている	●ベルトの張り調節をする ●新しい部品を交換する ●適正な積込みをする	3 0 — 2 0

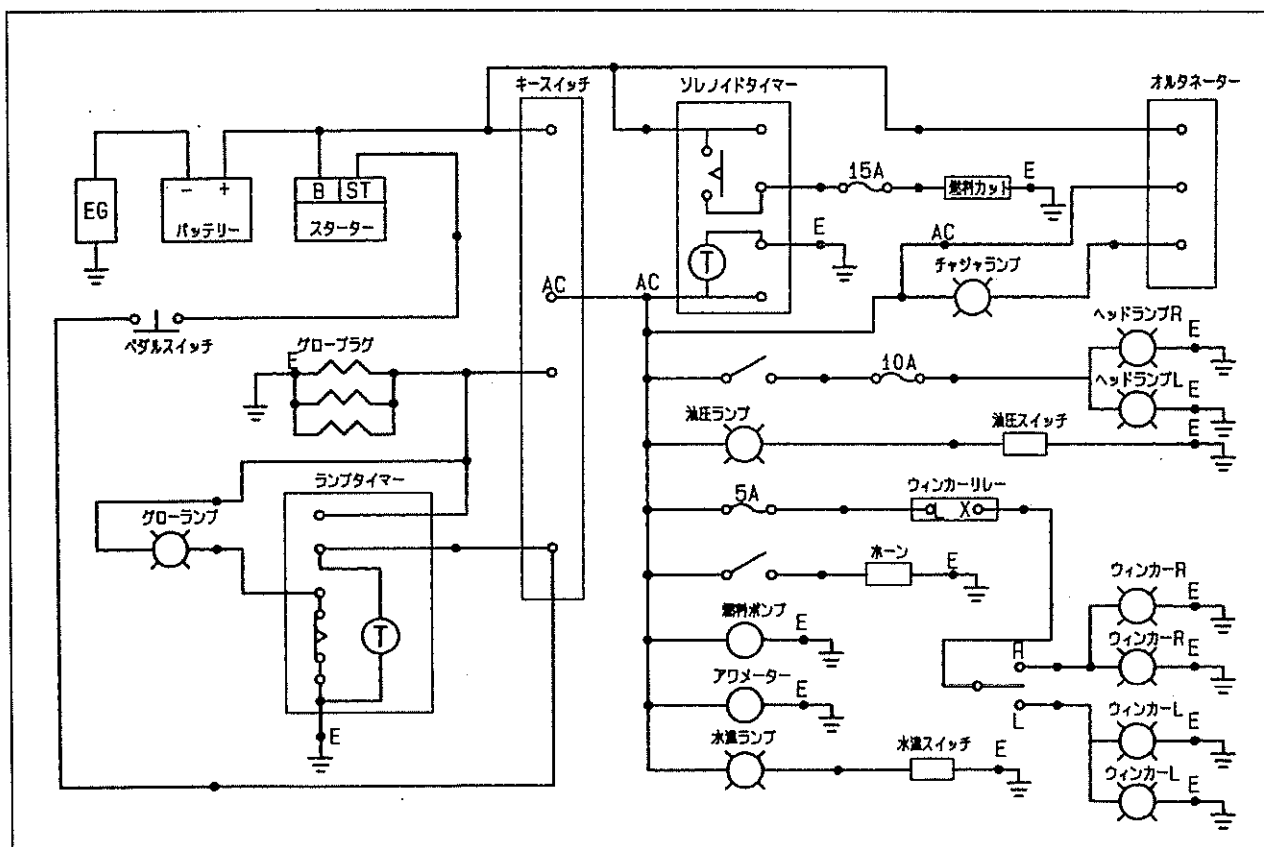
付 表

主要諸元			
品 名		自走マニアスプレッダ	
型 式		SD1810	SD1810D
ビ ー タ ー 形 式		横一段ビータ	ディスクテビータ
車体寸法	全 長	3890mm	3880mm
	全 幅	1630mm	
	全 高	1680mm	
地 上 高	最低地上高	250mm	
	床 面 高 さ	735mm	
機 体 質 量		1,535kg	1,555kg
荷台寸法 (L×W×H)		2,175×(1,350)×530	
最 大 積 載 量		1,800kg	
ゴムクローラ 寸 法	ク ロ ー ラ 幅	350mm	
	中 心 間 距 離	1100mm	
	接 地 長	1430mm	
接 地 圧	空 車 時	15.0kPa (0.15kg/cm ²)	15.2kPa (0.16kg/cm ²)
	積 載 時	32.7kPa (0.33kg/cm ²)	32.8kPa (0.34kg/cm ²)
旋 回 方 法		サイドクラッチ方式 (湿式多板ブレーキ)	
速 度	前 進 1 段	2.1km/h	
	前 進 2 段	4.3km/h	
	前 進 3 段	6.2km/h	
	前 進 4 段	9.1km/h	
	後 進 1 段	2.6km/h	
エ ン ジ ン	型 式	クボタ D1005	
	定格 (最大) 出力	14.4kw (16.4kw)	
	燃 料 消 費 率	190g/ps-h	
散 布 幅		3m	6～8m
登 坂 能 力		25度	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

付 表

2. 配線図



3. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド	備 考
コンベアバー	2 3 1 0 7 1 3 9 0 0 0 0	
コンベアチェーン	1 1 6 0 1 1 3 2 3 0 0 0	# 5 7 チェーン
シェアボルト	0 1 1 1 8 5 1 0 0 6 0 0	M10×60 (8 T)
ベルト (エンジン→走行ミッション)	0 3 6 1 0 2 1 2 0 3 7 0	LB-37 (オレンジベルト)
ベルト(走行ミッション→マニア 用ギヤボックス)	0 3 6 1 0 2 1 2 0 5 1 0	LB-51 (オレンジベルト)
エアクリーナエレメント	1 1 6 7 8 4 4 2 2 0 0 0	
燃料ストレーナフィルタ	1 1 6 7 8 4 4 8 4 0 0 0	
燃料プレフィルタ	1 1 6 7 8 4 4 6 9 0 0 0	
オイルカートリッジ	1 1 6 7 8 4 3 6 6 0 0 0	